

Amazon プライムや UNEXT などのサブスクで映画を見れるような時代になりました。

三重高校演劇部員になろうとする人に観てほしい映画を 10 本選びました。番号は別に順位ではありません。

ぜひ、映画を見て感想を日記に残したりして、今後の部活動・人生に役立ててください。

1 侍タイムスリッパー 2024 年 131 分 安田淳一監督

幕末に幕府側で戦う主人公が、現代の京都の映画撮影所にタイムスリップするという困難に直面するが、現実を受け入れて、切られ役の役者として生きていくという話。主人公がおにぎりを食べるシーン、最後の真剣で決闘するシーンなど。「刀の重さを描く」というテーマの珍しさが効いている。時代劇に関わる人たちの仕事への誇りも感じられる。



2 フラガール 2006 年 120 分 李相日監督

炭鉱が閉鎖されていく時代、福島県いわき市に新しい雇用産業として「常磐ハワイアンセンター」が作られることになった。それに応募した現地の少女オたちと先生たちの交流を描く。主人公たちが差別・偏見と闘いながら、様々な人とで出会いや別れの中で、フラガールとしてのアイデンティティを確立していく姿が感動的。実話をもとにしている。親友との別れのシーン、帰ろうとする先生を他の生徒たちと駅でフラダンスで止めるシーン、差別していた母親がついに主人公を応援してくれるシーン、最後の圧倒的なフラダンスなど、見どころ満載。



3 あの子を探して 1999 106 分 張芸謀(チャン・イーモー)監督 中国

貧しい中国の農村。お金が欲しくて小学校の代理先生を引き受けた 13 歳の少女(ウエイ)が、悪ガキたちを相手に振り回される。やがて、貧しさゆえに街に出て行方不明になった少年を追いかけて、町へ行くことになり成長していく。ウエイの演技しない演技に入り込んでしまう。最後のカラーチョークで、ウエイと生徒たちが好きな漢字を一字ずつ書くシーンが心に残る。



4 おくりびと 2008 130 分 滝田洋二郎監督

チェロ奏者である主人公。妊娠した愛妻がいる中で、オーケストラが解散する。生活に困り、生まれた家のある山形に戻る。両親はもう不在。主人公はそこで納棺士(のうかんし)という仕事に出会う。最初はその仕事を嫌がっていた主人公が偏見の目で見られながらも、その仕事に誇りを持つようになり成長する。また仕事を理解してくれなかった妻にも理解してもらうようになる、という話。脚本が非常によくできている。久石譲の音楽もよい。



5 七人の侍 1954 年 207 分 黒澤明監督

戦国時代のある農村。農民たちは夜盗と化した野武士たちの襲撃に悩んでいた。村を守るために、用心棒となる侍を雇うことになる。雇われた七人の侍の個性的なキャラクターと、それぞれが誇りを持ち、協力して困難に立ち向かう姿、農民たちと武士たちの立場の違いによる距離感など、様々なシーンが印象に残る。特に最後の決闘のシーンの撮影は、狂気と執念としか言いようのないすごい映像。黒澤作品ではこの映画のほかに、「生きる」「天国と地獄」なども、高校生にも分かりやすい。



6 テルマ&ルイズ 1991 年 129 分 リドリー・スコット監督

女二人ドライブの旅をしていたテルマとルイズは、成り行きで暴漢を撃ち殺してしまい、殺人犯として警察に追われる身となる。強盗や傷害を繰り返す中で、主人公のテルマは自分が「自由に生きることができる存在」だと悟っていく。そして衝撃のラスト。1991 年アカデミー賞脚本賞受賞作品。



7 東京物語 1953 年 136 分 小津安二郎監督

主人公の周吉(63 歳)は、妻と東京で暮らす息子と娘の生活を見るために、東京を訪ねる。しかし、高度成長期に入りかけた東京では、長男と長女は忙しく、なかなか父母の相手をする事ができない。唯一親身に接してくれたのは、戦死した次男の嫁の紀子(原節子)だけであった。親子とは、老いるとは、生きるとは、など人生をじわじわと考えさせられる、世界的に評価の高い小津安二郎の代表作。小津作品は、現代の人が見ると「セクハラ」「男尊女卑」的なセリフが多いが、この作品は比較的それが少ないので、若い人におすすめ。また「秋刀魚の味」もじわじわくる。小津監督は 9 歳から 19 歳を松阪市で過ごしていて、記念館も松阪市にある。



8 ショーシャンクの空に 1994 年 142 分 フランク・ダラボン監督

1920 年代アメリカ。妻殺しの無実の罪で刑務所に入れられた銀行員の主人公が脱獄し、後から出て来た刑務所内の友人と会うまでの話。どんなに絶望的な状況でも希望を失わない主人公の魅力に圧倒される。人生をあきらめた受刑者たちに光をもたらしていく姿が感動的。そして絶対的な「悪」が現れ、主人公を最悪の状態に追い込むが、それを乗り越えて脱獄し、復讐するカタルシスが最高。親友レッドとの衝撃の再会のラストに胸が熱くなる。



9 さびしんぼう 1985 年 110 分 大林宜彦監督

1980 年代の尾道。カメラ好きの主人公は、望遠レンズで隣の高校を覗いているうちに、いつも放課後同じ時間に音楽室でピアノを弾く少女に、恋心を抱くようになる。そのころ主人公の前に「さびしんぼう」という不思議な少女が現れて、その少女が起こす騒動に主人公が巻き込まれていく。前半はコミカルに描かれつつ、後半は心に響くシーンが連続する。主人公が父親と同じ風呂に入るシーンがあり、そこで父親がいうセリフが感動的。いくら自分が望んでも、どうしようもないときがあることを知る絶望感など、切ないシーンが印象に残る。



10 この世界の片隅に 2016 年 126 分 片渕須直監督

この史代原作の漫画のアニメ化。1930 年代の戦争に向かっていく時代の広島が舞台。主人公の絵を描くことが好きな少女すずは、18 歳になり顔も知らない人と結婚することになる。その人の家に嫁ぎ、懸命に適応しようと生活を送るが、やがて戦争が深刻化、生活がどんどん脅かされることになる。そして可愛がっていた姪と、自身も効き手を爆弾で失うという試練を受ける。観客はすずさんとその時代を共に生き、本当に身近な人を感じるような丁寧な描かれ方。ラストの原爆の日、終戦の日まで目が離せない。

